



大砂土中だより

はっ らっ

澆 刺 と



さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.5 令和4年9月1日号

空飛ぶクルマ

校長 上続 昌司

夏休み中に読んだ新聞の記事を紹介します。

「空飛ぶクルマ」徳島大学が独自に開発を進めている「災害対応型自動車」の試作車による初の飛行試験を行いました。車体がわずかに浮上することに成功。通常時は電気自動車として地上を走行し、災害時に被災現場を飛び越えたり、積雪など孤立した地域の物資を届けたりするために短距離飛行できる車の開発を進めてきた。将来的には、農薬散布などの産業用としての活用も想定している。アルミ製の1人乗りで、長さ2.5メートル。最大幅2.8メートル（飛行時）、重さ178キログラム。車体底部に2基の大型モーターと下向き的大型プロペラがあり、ゴムタイヤのついた4つの車輪（直径約80センチ）には、それぞれ小型モーターと小型のプロペラが付いている。

この研究は2020年から始まり、今も夢の実現に向けて挑戦を続けています。人間が空を飛ぶたいと思いはじめたのはいつの頃からでしょう。何万年も前から、「鳥のように空を飛んでみたいな」と思っていたのではないのでしょうか。1480年頃、絵画モナリザで有名なレオナルド・ダ・ヴィンチも空を飛ぶための装置を考え、「空気スクリュー」で飛ぶ一人乗りのヘリコプターのデザインをスケッチとして残しています。人類が飛行機に乗って初めて飛行したのは1903年2月、アメリカのライト兄弟が世界初の本格的な有人飛行を成功させと記録があります。約120年前の出来事です。今では、飛行機やヘリコプター等、空を飛んでいるのはごく普通の光景となりました。そこに、空飛ぶクルマの夢が加わろうとしています。飛行機やヘリコプターとの違いは、普段はクルマとして地上を走り、必要に応じて飛行機となり空を飛ぶことです。映画やマンガの中では描かれてきましたが、近い将来さっきまで地上を走っていたクルマが、空を飛ぶ光景を見る日が近付いていると思うとワクワクしますね。

人間の挑戦は今も昔も変わらず尽きることはありません。夢から始まり、やがて現実のものとなるよう努力を続けます。何度失敗を繰り返してもあきらめず試行錯誤し、成功を夢見て挑戦し続けることは本当に素晴らしいことです。皆さんも、夢をもって生活し、努力を続け、将来へと繋げていって欲しいと思います。

2学期は校外学習や未来くるワーク、合唱コンクール等の行事があります。一人ひとりが精一杯取り組んで、仲間とともに大きな喜びを味わってほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。2学期も引き続きよろしくお願ひいたします。